

## SIDS解剖プロトコールの標準化について

澤口 彰子<sup>1) 2)</sup>、澤口 聡子<sup>1)</sup>、  
高嶋 幸男<sup>3)</sup>、小林 慎雄<sup>4)</sup>

要約： 解剖無くしては正確な診断のなされ得ない乳幼児突然死症候群であるが、剖検の際の記録方法は解剖に携わる各医師毎に個人差がある。乳幼児突然死症候群の病因解明のために、より精度の高い診断が必要であることから、国内で標準化された解剖プロトコールの作成が望まれる。この為、乳幼児の突然死を対象とした標準化解剖プロトコールを試案した。

見出し語： 乳幼児突然死症候群、解剖プロトコール

本年度より乳幼児突然死症候群の定義は、従来の狭義の定義に一本化され、剖検が義務づけられる形となった。剖検無くして正確な診断のなされ得ない本症候群ではあるが、剖検の方法・記録等については、解剖にあたる医師によって差違がある。より精度の高い診断のために、解剖プロトコールの標準化が望まれる。

国際的には、アメリカの Krous等を中心として、International Autopsy Protocol (IAP) の標準化が試みられている<sup>1)</sup>。又、オーストラリアに於いては、Cordner等を中心として、National SIDS Autopsy Protocolが標準化され、本プロトコールに基づいた650例がデータベースとして蓄えられている<sup>2)</sup>。

今回、小児突然死のための標準化解剖プロトコールの試案にあたり、上記2者のプロトコール及び東京都監察医務院剖検記録様式を参考とした。

### 文献

- 1) SIDS Global Strategy Task Force. Development of Standardized International Autopsy Protocol (IAP). Report for Second SIDS Global Strategy Meeting. 1994:23-35.
- 2) Mary Quilliam. The National SIDS Autopsy Protocol & Database. Annual Report. 1994: 1-28.

小児突然死の為の標準化解剖プロトコール (案)

患者名  
年齢  
性  
出生日時  
死亡日時  
解剖日時  
死後時間  
解剖場所  
解剖者名  
解剖者連絡先  
国籍  
人種  
直接死因

微生物学的検査結果  
中毒学的検査結果  
化学的検査結果

最終診断

1) 東京女子医科大学法医学教室 (Dept. of Legal Med., Tokyo Women's Medical College) 2) 東京都監察医務院 (Tokyo Medical Examiner's Office) 3) 国立精神神経センター神経研究所 (National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry) 4) 東京女子医科大学第1病理学教室 (Dept. of Pathology, Tokyo Women's Medical College)

外表所見 (1)	
身長	cm
頭囲	cm
胸囲	cm
腹囲	cm
発育	
栄養状態 (正常・不良・肥満)	
脱水、浮腫	
死後硬直 (顎・項・肩・肘・手指・股・膝・足趾)	
死斑 (背面・前面)	
(指圧による消失)	
死後変化 (軽・中・高)	
直腸温	
室温	
皮膚の色 (黄疸・蒼白・チアノーゼ)	
先天奇形	
外皮	溢血点
	皮疹
	母斑
	その他

外表所見 (2)	
外傷の既往	出血 裂創 表皮剥脱 火傷 その他
陳旧性手術痕	瘢痕 その他
蘇生術による医療痕	顔面マスク痕 口唇の表皮剥脱 胸部の斑状出血 心電図モニター痕 カウンターショック痕 静脈穿刺痕 その他

外表所見 (3)	
頭	構造と形 頭蓋冠と髪 骨質 泉門
目	色 位置異常 角膜 (溢血点・血盈) 角膜混濁 瞳孔透見性 瞳孔径 (左 cm > 右 cm) 白内障 黄疸 その他

耳	位置異常 外耳道内異物
鼻	その他 分泌物 中隔偏位 鼻腔閉鎖 その他
口	内容 上唇小帯 存在歯 (上顎・下顎)
舌	巨舌症 舌小帯異常
口蓋	口蓋裂 高口蓋 小顎症
顎	
頸部	
胸部	
腹部	膨満 臍異常 ヘルニア その他の異常
生殖器	
肛門	
四肢	指・指爪 趾・趾爪
脊椎	

内景所見 (1)	
皮膚緊張度	
皮下脂肪	胸骨上 cm 臍下 cm
皮下気腫	
胸腔	胸骨・肋骨 骨折 仮骨形成 横隔膜の高さ (左・右) 胸膜癒着 (左・右)
腹腔	胸腔液 (左 ml・右 ml) 内臓逆位 組織自家融解 臍動脈・臍静脈 肝下縁 (鈍・鋭) 腹腔液 ml
心膜腔	心囊癒着 心囊液 ml
後腹膜腔	
溢血点	壁側胸膜 (左・右) 臓側胸膜 (左・右) 心外膜 胸腺 壁側腹膜 臓側腹膜

内景所見 (2)	
呼吸器系	
頸部気道	
上気道閉塞	異物 粘液栓 その他
頸部軟部組織の	出血
舌骨	骨折
甲状軟骨	骨折
胸腺	重量 g

	萎縮	
喉頭蓋		
喉頭	狭窄	
気管	狭窄	
	浸出物による閉塞	
	胃内容吸引	
主気管支	ET tubeの位置	
	滲出液	
	粘液栓	
	胃内容	
肺	炎症	
	重量 (左 g · 右 g)	
	うっ血	
	出血	
	水腫	
	硬化	
	奇形	
	肺動脈血栓	
	溢血点	
	血流量	
	含気	
	肺門・気管分岐部リンパ節	
胸膜	炎症	
横隔膜	炎症	
	ヘルニア	

内景所見 (4)		
消化器系		
食道	粘膜	
	内容 (潰瘍)	
胃	粘膜 (性状)	ml)
	自家融解	
小腸	臭	
	粘膜 (潰瘍)	
	内容 (性状)	ml)
大腸	出血	
	腸捻転	
	粘膜 (潰瘍)	
	内容 (性状)	ml)
	うっ血	
虫垂	脂肪	cm
腸間膜	リンパ節	
肝臓	重量	g
	外表	
	血量	
	割面	硬度 )
		黄色調
		小葉構造
	門脈	
	胆管	
胆嚢	肝門部リンパ節	ml
	胆汁	
膵臓	重量	g
	自家融解	
	血量	
	硬度	
	分葉構造	
	膵管	
	脂肪壊死	

内景所見 (3)		
心血管系		
心臓	重量	g
心外膜	脂肪	
	斑濁	
血液	暗赤色流動性	軟凝性
	摘出時	ml
	血栓	
大動脈弁口		cm
肺動脈弁口		cm
僧帽弁口		cm
三尖弁口		cm
左心室厚さ (弁下1cm)		cm
右心室厚さ (弁下1cm)		cm
冠動脈	優位性	左・右
	走向	
	左冠動脈	前下行枝
		回旋枝
大動脈	右冠動脈	
	径 (弓部・胸部・腹部・分岐部)	
	血栓・塞栓	
内頸動脈	大動脈縮窄	
	総頸・内頸動脈分岐部径	
	狭窄	
	血栓・塞栓	
卵円孔		
ボタロ管開口		
先天性心疾患		
ASD		
VSD		
肺静脈還流異常		
カテーテルチップの位置		
その他		

内景所見 (5)		
細網内皮系		
脾	重量	g
	硬度	
	被膜	
	リンパ濾胞	
胸腺	脾重量	g
	萎縮	
リンパ節	頸部	
	腹部	
	その他	
骨髓	色	

内景所見 (6)		
泌尿生殖系		
腎臓	重量 (左 g · 右 g)	
	腫脹	
	被膜剥離	
	皮髓境界	
	血量	
	硬度	
	腎盂 (溢血点・血盪)	
尿管		

膀胱	粘膜		
辜丸	尿性状	ml	
副辜丸	精細管	牽索性	
前立腺	(	×	× cm)
子宮	筋腫		
卵巣	囊腫		
陰嚢			
内分泌系	コロイド量	g	
甲状腺	(左	g・右	g)
副腎	皮質の厚さ		
	リポイド量		
	下垂体	g	
先天性奇形			

内景所見 (7)			
中枢神経系	外傷・骨折		
頭蓋骨	頭皮		
	帽状腱膜		
	泉門	大泉門	× cm
		小泉門	× cm
	頭蓋冠		
	縫合	開	大
	頭蓋底うっ血		
	中耳		
	大後頭孔		
脳	重量 (固定前)	g)	
	(固定後)	g)	
	出血	硬膜外	
		硬膜下	
		クモ膜下	
		脳内	
		小脳	
		脳幹	
		脊髄	
	硬膜裂傷		
	硬膜静脈洞血栓		
	脳軟膜うっ血		
	脳軟混濁		
	水頭症		
	脳回の異常		
	浮腫		
	ヘルニア		
		鉤	
		扁桃	
	扁桃壊死		
	脳挫傷・挫傷性裂傷		
	奇形		
	Willis輪		
	脳底動脈		
	脳室	拡大	
	脳梗塞		
	白質軟化		
	血管充盈・血点		
	その他		

脊髄	炎症	症
	挫傷	傷
	奇形	形
	その他	他
筋骨格系	発育	育
筋	骨	折
肋	折	折
脊	骨	折
頭蓋	骨	折
主たる骨		

微生物学的検査	
剖検前	ウイルス (気管分泌物・便)
	細菌 (血液・髄液・体液)
	真菌
	ミコプラズマ
剖検中	ウイルス (肝・肺・感染巣)
	細菌 (肝・肺・感染巣)
	ミコプラズマ
放射線学的検査	
	全身
	骨格 骨折
	胸部 気胸
	胸膜炎
	びまん性陰影
	心血管系
	腹部 気腹
	その他
	頭蓋 骨折
	ヘルニア
	その他

中毒学的検査	
	コカインとその代謝産物
	モルヒネとその代謝産物
	アンフェタミンとその代謝産物
	揮発性薬毒物 (エタノール・アセトン)
	その他
	1年間保存されるべき新鮮試料 (-70℃)
	全血及び血清
	髄液
	肝臓
	腎臓
	前頭葉
	肺臓
	心臓
	尿
	胆汁
	硝子体液・前房水
	胃内容
	リンパ節
代謝疾患のための検査	
	全血
	尿
	髪の毛

組織学的検査

採取を義務づけられているもの

皮膚  
胸腺  
リンパ節  
喉頭蓋  
喉頭  
声帯ひだ  
気管  
甲状腺  
気管分岐部  
肺(各葉)  
横隔膜  
心臓 中隔・各壁・刺激伝導系  
(右房部・中隔部)

食道  
終末回腸  
直腸  
肝臓  
脾臓及び十二指腸  
膵臓  
肝臓(被膜を含む)  
副腎  
肋骨(肋軟骨接合部を含む)

顎下腺  
頸髄  
延髄  
橋  
橋延髄接合部  
中脳  
海馬  
前頭葉・頭頂葉・後頭葉  
小脳  
脈絡叢  
基底核・視床

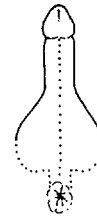
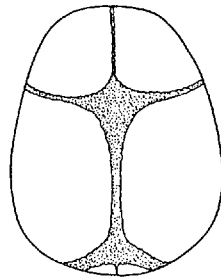
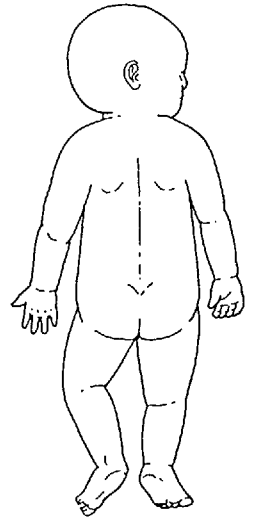
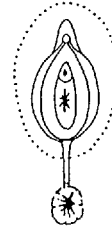
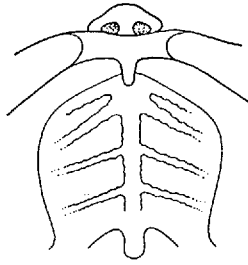
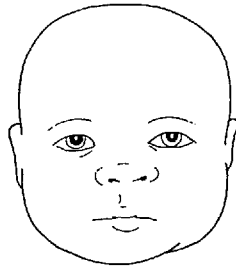
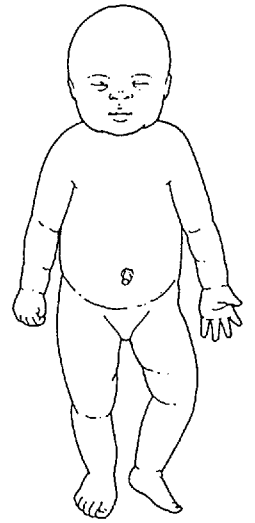
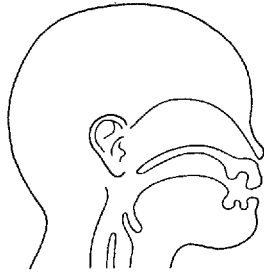
自由裁量で採取すべき試料

頸部軟部組織  
肺門部  
脾尾部  
腸間膜  
胃  
結腸  
虫垂  
精巣及び卵巣

膀胱  
腸腰筋  
口蓋扁桃

Oil Red O染色を施すべき試料

心臓  
肝臓  
筋肉



External body diagrams  
from Magee-Womens Hospital  
autopsy protocol.



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

解剖無くしては正確な診断のなされ得ない乳幼児突然死症候群であるが、剖検の際の記録方法は解剖に携わる各医師毎に個人差がある。乳幼児突然死症候群の病因解明のために、より精度の高い診断が必要であることから、国内で標準化された解剖プロトコルの作成が望まれる。この為、乳幼児の突然死を対象とした標準化解剖プロトコルを試案した。